1920年代パリの昆虫関連の話題
日本郵趣協会 昆虫切手研究会

1920年代は一般人にも博物学が浸透し、植民地や全世界からの昆虫を集め、パリでは標本商が大きな活躍を見せていた時期です。著名な標本コレクションが作られ、後にパリ自然史博物館にも収められました。また当時標本から博物画が描かれ、カードや壁紙などにも使われていたことから、昆虫画が市民権を得ていたようです。

# 1920年代 パリの昆虫関連の話題

JPS昆虫切手研究会

19世紀は、ヨーロッパの人々の自然への関心が特に高かった時代でした。人々に生活のゆとりができ、生き物の個性あふれる美しさに目が向けられたからです。猟で捕った動物を剥製にして家に飾ったり、貝や昆虫を集めるのが流行しました。

また、たくさんの船が生き物や民族、天文などの調査をするため、未知なる国への大航海に出発しました。そして、ヨーロッパの人々がこれまでに見たことも無かったような珍しい動植物を、アジアやアフリカから持ち帰ったのです。

20世紀には、それらがさらに一般人にも浸透し、昆虫標本や昆虫を題材とした美術品が普及しました。

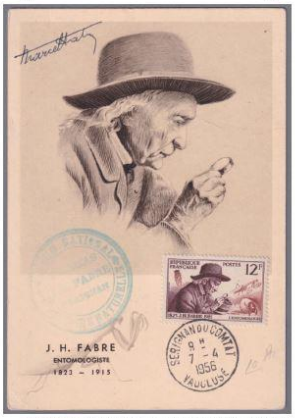
◆ 目 次 ◆


1 1921年 ファーブルの研究所
国立自然史博物館分館に指定
2 標本商の活躍
2-1 デロール
2-2 ル・ムールト
2-3 モルフォ・ラッシュ
3. マダム フルニエ
フルニエフタオ（1930年記載）
4. エミール セギの昆虫画（1926-27）
5. アンドレ・ジッド（1926-27植民地視察）


◆ 参考文献・写真引用 ◆


捕虫網の円光 奥本大三郎著 平凡社 1993年
世界珍蝶図鑑 海野和男著 人類文化社 2001年
好奇心の部屋 デロール 今森光彦著
福音館書店 2008年
コンゴ紀行 アンドレ・ジイド全集 新潮社 1951年
世界のタテハチョウ図鑑 手代木求 北海道大学出版会
世界のアゲハチョウ図説 中江信 六本脚
世界の昆虫切手 JPS昆虫切手研究会編


## 1 ファーブルの研究所




フランスの昆虫学者アンリ・ファーブル（1823～1915）の研究所アルマスは、弟子や支持者らの熱心な運動により、1921年、国立自然史博物館の分館に指定された。

## 2. 標本商の活躍

### 2-1 デロール DEYROLLE

博物館を併設した 1831年創設の剥製販売店。化石、昆虫標本、動物の剥製を扱っている。

1888年、パリ16区にあった店を現在のrue du Bac（バック通り）に移転し、現在も、標本販売の他、学校の授業用や店舗のディスプレイ用に剥製を貸し出すなどして営業している。

デロールの店

切手帳 中(70%) デロールの店の商品

フランス 2020.3発行切手帳「好奇心のキャビネット」

## 3 マダム フルニエ Madame Fournier

アグリアスコレクションの部屋に飾られている若き日のフルニエの肖像

フルニエは富裕な宝石商の娘として生まれ、後に銀行家と結婚している。

1916年から1952年にかけて収集した膨大なチョウのコレクションがあり、彼女の没後、パリ自然史博物館に収蔵された。

中でも自慢なのがアグリアス（ミイロタテハ）コレクションであり、当時知られたアグリアスはすべてこのコレクションに収められている。富裕で宝石を愛でる審美眼を持った彼女であればこそのコレクションと言われている。

ナルキサスミイロタテハ
*Agrias narcissus*

パリ 国立自然史博物館 設立200年記念

アミトンミイロタテハ（裏面）
*Agrias amydon♂*

アミトンミイロタテハ（表面）
*Agrias amydon*

アグリアスミイロタテハ（裏面）
*Agrias amydon♀*

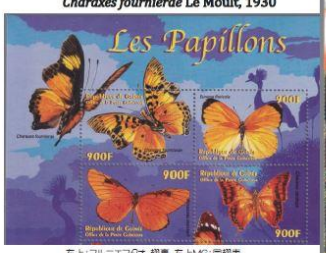
ベアタミイロタテハ
*Agrias beata♀*

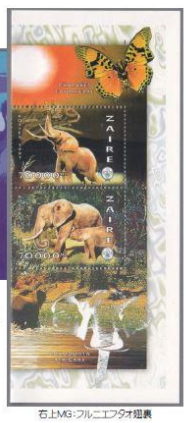
ベアタミイロタテハ
*Agrias beata♂*

フルニエフタオ 左：翅表 右：翅裏

ホソチョウガタフタオ
*Charaxes Acraeoides*

フルニエフタオ
*Charaxes fournierae* Le Moult, 1930




左上：フルニエフタオ 翅裏、左上MG：同翅表

右上MG：フルニエフタオ翅裏

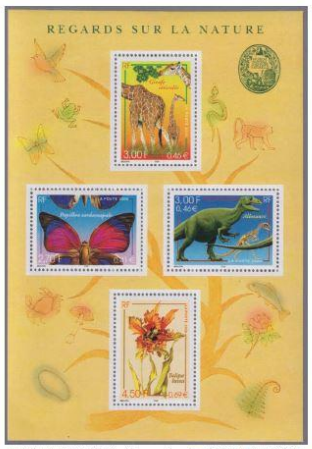
ル・ムールトが珍種中の珍種で採集を熱望していたCharaxes Acraeoides（ホソチョウガタフタオ）の♀をようやく入手したと思ったチョウは、別の新種で、はるかに大きく色彩は鮮やかであった。

ヨーロッパとアフリカ大陸とは近いので、アフリカ、マダガスカルで繁栄を極めているフタオチョウのファンは元々ヨーロッパに多く、ことに西アフリカに植民地を持っていたフランス人には人気が高い。

この新種をル・ムールトの上得意フルニエ夫人に見せたが最後、あきらめてもらえず、売らざるを得なくなった。

ル・ムールトは1930年、フルニエ夫人の名を冠し、フルニエフタオ Charaxes fournieraeとして新種記載した。

ホソチョウガタフタオの♀は1976年に発見された。




サルダナパルスミイロタテハ *Agrias sardanapalus*「自然の景色」2000年（自然史博物館のロゴ入り）